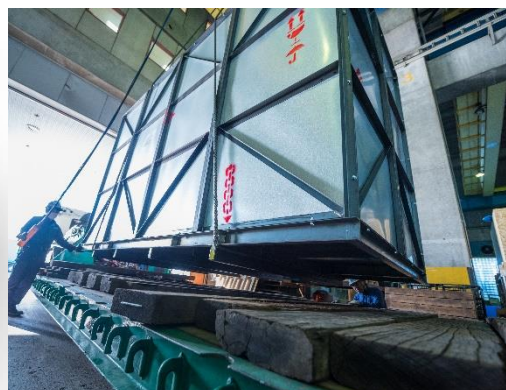


2023年3月期 決算説明会

地球をつつむ思いやり
ロジスティクスパートナー サンリツ

株式会社サンリツ
2023年6月5日

東証スタンダード
【証券コード：9366】



本日のご説明内容

- 1. 2023年3月期 決算概要：前期比増収・減益**
- 2. 中期経営計画の総括及び今後の取組み**
- 3. 2024年3月期 業績予想：前期比増収・減益**
- 4. トピックス**

- 1. 2023年3月期 決算概要** P 3
2. 中期経営計画の総括及び
今後の取組み P 8
3. 2024年3月期 業績予想 P15
4. トピックス P20
5. 参考資料 P25

1-1. 2023年3月期 決算概要

- ・ 増収：工作機械の取扱いが引き続き好調に推移
- ・ 減益：材料費の値上がりにより微減益

(単位：百万円)

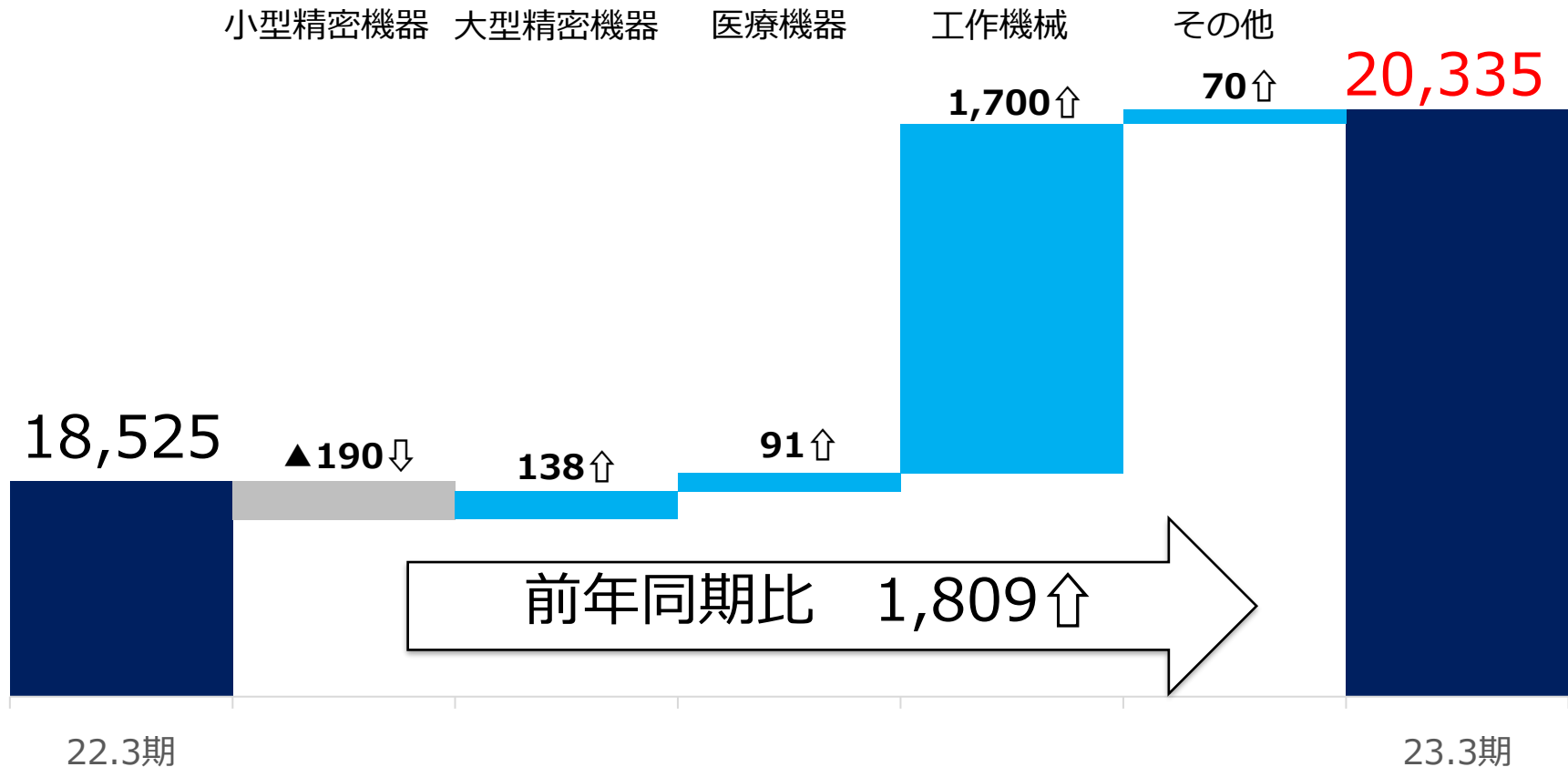
	2022.3期	2023.3期	前期比 増減率	2023.3期 予想	予想比 増減率
売上高	18,525	20,335	9.8%	19,000	7.0%
売上原価 (売上原価率)	14,683 (79.3%)	16,192 (79.6%)	10.3% (0.3%)	—	—
売上総利益 (売上総利益率)	3,841 (20.7%)	4,142 (20.4%)	7.8%	—	—
販管費 (販管費率)	2,780 (15.0%)	3,123 (15.4%)	12.3% (0.4%)	—	—
営業利益 (営業利益率)	1,060 (5.7%)	1,019 (5.0%)	▲3.9%	950 (5.0%)	7.3%
経常利益 (経常利益率)	1,107 (6.0%)	1,203 (5.9%)	8.7%	1,100 (5.8%)	9.4%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	759 (4.1%)	980 (4.8%)	29.1%	800 (4.2%)	22.6%
1株当たり 当期純利益(円)	135.15	175.00	29.5%	141.35	

1-2. 2023年3月期 取扱製品群別 決算概要

- ・ 工作機械の取扱いが引き続き好調に推移したことが、売上高増加の主要因

(単位：百万円)

製品群別売上高の増減分析



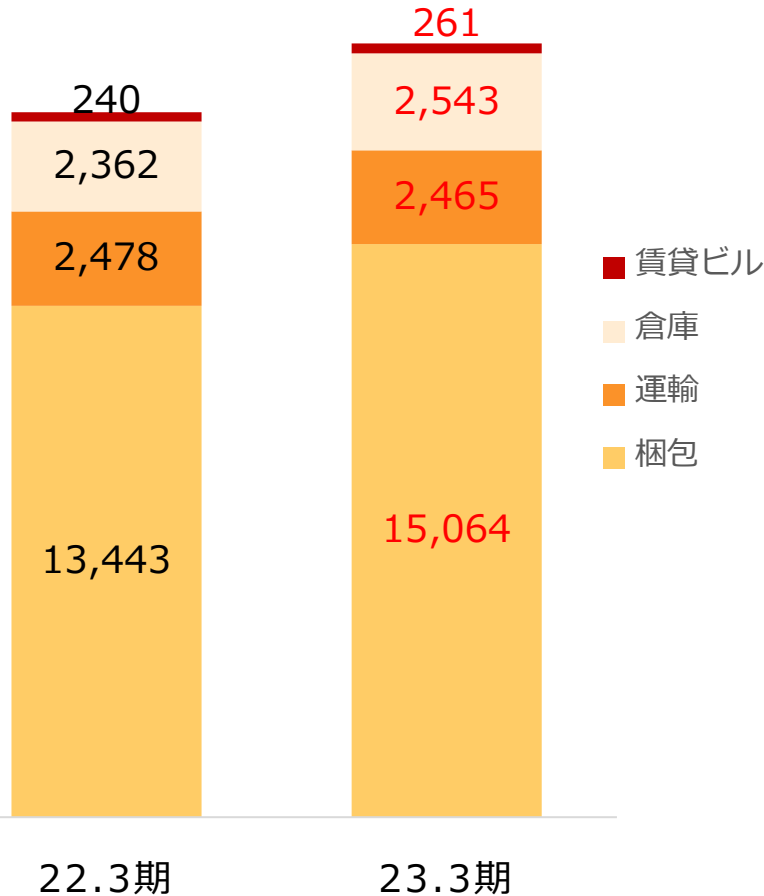
1-3. 2023年3月期 セグメント別 決算概要

売上高

(単位：百万円)

18,525

20,335

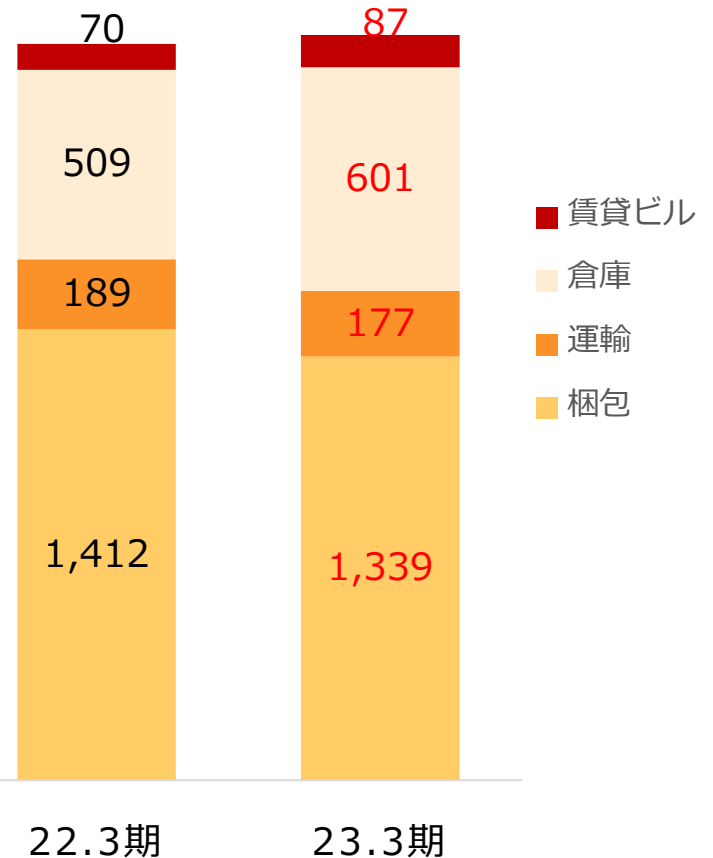


セグメント利益

(単位：百万円)

2,182

2,266



1-4. 2023年3月期 地域別売上高 決算概要

- ・ 米国：部品不足の影響があったものの、一部製品の取扱量に回復の動きがみられたことで増収

(単位：百万円)

	2022.3期	2023.3期	構成比	前期比 増減額	前期比 増減率
日 本	17,297	18,804	92.5%	1,507	8.7%
中 国	81	74	0.4%	▲7	▲8.6%
米 国	1,147	1,456	7.1%	309	27.0%
合 計	18,525	20,335	100.0%	1,809	9.8%

1. 2023年3月期 決算概要 P 3
- 2. 中期経営計画の総括及び
今後の取組み P 8**
3. 2024年3月期 業績予想 P15
4. トピックス P20
5. 参考資料 P25

2-1. 中期経営計画の概要

◆ビジョン(中長期的に目指す姿)

オペレーションから ソリューションへ

◆経営目標

期 間	2023年3月期 最終目標	(参考) 2021年3月期	伸び率
2021年4月 ~ 2023年3月	売上高 16,600百万円	15,210百万円	9.1%
	営業利益 1,100百万円	599百万円	83.6%
配当方針	営業利益率 6.6%	3.9%	2.7pts
30%目途	R O E 7.3%	4.4%	2.9pts

2-2. 中期経営計画の結果

- ・ 売上目標は達成
- ・ 営業利益、営業利益率ともに未達成

【中期経営計画】

(単位：百万円)

	【参考】 2021.3期 実績	2022.3期 計画	2023.3期 計画
売上高	15,210	16,200	16,600
営業利益	599	1,000	1,100
営業利益率	3.9%	6.2%	6.6%

【実績】

	【参考】 2021.3期 実績	2022.3期 実績	2023.3期 実績
売上高	15,210	18,525	20,335
営業利益	599	1,060	1,019
営業利益率	3.9%	5.7%	5.0%

2-3-1.中期経営計画の総括及び今後の取組み

【国内事業の総括と今後の取組み】

施策

1. 精密機器/医療機器

- ・取引採算の向上
- ・顧客の生産効率向上に寄与するソリューションを提案
- ・既存拠点の再構築の検討をスタート(成田地区、多摩地区)

2. 工作機械

- ・海外子会社と連携したシームレスな国際一貫物流サービスを提供

総括

- ・メディカル推進TEAMを組成し、安定顧客となる外資系医療機器メーカー案件を獲得。
- ・成田事業所拡大プロジェクトを立ち上げ、中長期的な事業基盤の安定化を見据えた投資の検討を開始。
- ・工作機械では、米国子会社の新倉庫での取り扱いを視野に工作機械メーカー様へ一貫物流を日米連携で提案。

今後の取組

- ・収益性向上のため、引き続きソリューション提案の継続。より一層顧客との対話を重ね、顧客のものづくりへの理解を深めることでソリューション提案へと繋げる。
- ・成田事業所拡大プロジェクトの推進。

2-3-2. 中期経営計画の総括及び今後の取組み

【海外事業の総括及び今後の取組み】

施策

1. 米国西海岸に新倉庫を建設し、業容拡大を図る。
2. 顧客のグローバル製造における潜在的な物流課題の解決をサポート

総括

- ・ 新倉庫の建設を開始。コロナ禍の影響で竣工の後ろ倒しや鋼材価格上昇による建設コスト増大もあったが、2023年6月末に竣工予定。

今後の取組

- ・ 米国西海岸の新倉庫の安定稼働を図るとともに、米国、中国のみでなく、欧州や東南アジアへも視野を広げ、さらなる業容拡大のための施策を検討。

【米国西海岸 新倉庫完成予想図】



◆ 新倉庫の概要

敷 地：5,548㎡(1,678坪)

延床面積：2,508㎡(760坪)

主要設備：オーバヘッドクレーン 30 t 1基
5 t 1基

2-3-3. 中期経営計画の総括及び今後の取組み

【事業運営の基盤強化の総括及び今後の取組み】

施策

- (1)組織：事業戦略部の設置
- (2)人材：人材育成の強化
- (3)設備投資：2年総額25億円

総括

組織：事業戦略部を設置し、「物流倉庫3Dソフトの導入」「動画マニュアル作成ツールの導入」「自動フォークリフトの実証実験開始」など作業効率化への取組みを実施

人材：ソリューション提案をできる人材育成のため、幹部人材育成研修などの研修を実施

設備投資：・米国子会社 新倉庫建設費用 15,700千米ドル(予定)
(土地代含む、一部建設費用2024.3期計上予定)
・基幹システムリニューアル、250百万円の投資を実施

今後の取組

- ・人的資本への投資を積極的に行い、ソリューションを実現する人材の確保及び育成に注力することに加え、働きがいのある職場の実現を目指す。
- ・物流DXについては、省人化・省力化を目的とし、より推進していくことで、事業基盤の強化を目指す。

無人
フォーク
リフト



- ・フォークリフト運転者の人手不足が懸念されるため、導入。
- ・物流品質向上、保管効率向上、省力化等の効果が期待される。

3Dソフト導入例



- ・物流倉庫のレイアウト図面を立体化、レイアウトを見直し、貨物の保管量向上に取り組む。

2-4.次期中期経営計画に向けて

中計を策定するにあたっての取り組むべき課題

人件費等の各種経費の増加及び外部環境の影響による取扱量の減少にも耐えうる、収益性向上へ向けた各種施策及び持続的な企業価値向上のための施策に取り組んでいく必要がある。

●収益性の向上

- ・ 営業戦力の増強を行い、ソリューション提案を強化
- ・ 取引採算の向上

●持続的な成長へ向けた投資

- ・ 成田事業所拡大プロジェクト
- ・ 米国、中国以外の地域への進出を検討
- ・ 省人化・省力化を目的とした物流DX

●人的資本への投資の強化

1. 2023年3月期 決算概要 P 3
2. 中期経営計画の総括及び
今後の取組み P 8
- 3. 2024年3月期 業績予想 P15**
4. トピックス P20
5. 参考資料 P25

3-1. 2024年3月期 業績予想

増収／減益

- ・ 日本経済：海外経済の減速など、先行き不透明な状況
- ・ 営業利益：積極的な人材確保の継続により減益

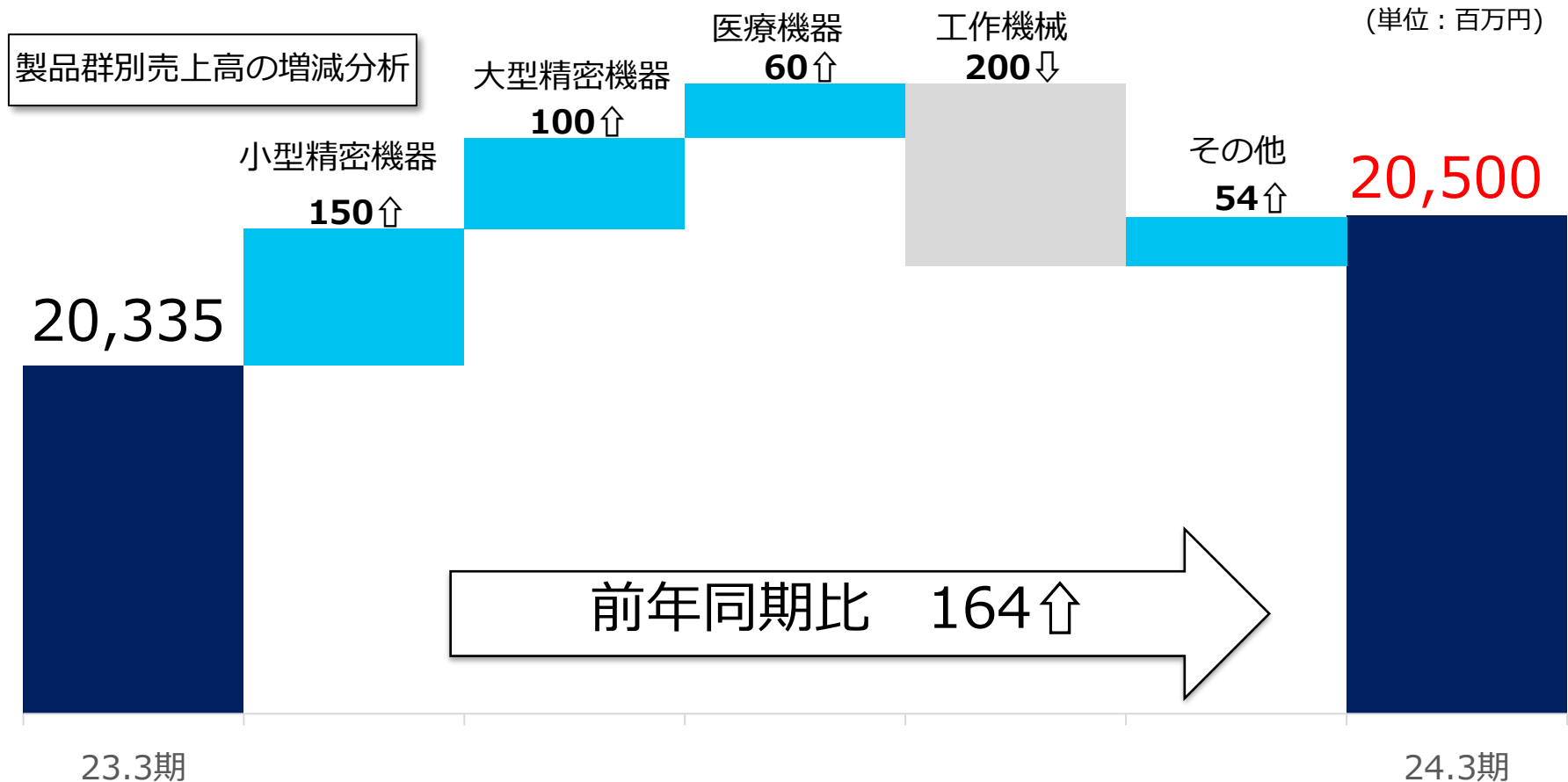
(単位：百万円)

	2023.3期	2024.3期 予想	前期比 増減	前期比 増減率
売上高	20,335	20,500	164	0.8%
営業利益 (営業利益率)	1,019 (5.0%)	900 (4.4%)	▲119	▲11.7%
経常利益 (経常利益率)	1,203 (5.9%)	850 (4.1%)	▲353	▲29.4%
親会社株主に 帰属する当期純利益 (当期純利益率)	980 (4.8%)	560 (2.7%)	▲420	▲42.9%
ROE (自己資本利益率)	10.1	5.5%	▲4.6pts	—
1株当たり 当期純利益(円)	175.00	99.94	▲75.06	▲42.9%
1株当たり配当(円)	50	29	—	—

【参考】 ◆設備投資 23.3期実績 12.6億円 24.3期予想 10.7億円
 ◆減価償却 23.3期実績 7.6億円 24.3期予想 8億円

3-2. 2024年3月期 取扱製品群別 業績予想

- ・ **工作機械**：米国子会社の新倉庫において新規顧客を獲得見込みであるものの、外部環境において設備投資への一服感がみられ、減少予想
- ・ **大型精密機器**：半導体製造装置の取扱いは減少予想も中国子会社でのスポット案件受注により増加見込み



3-3. 2024年3月期 地域別売上高 業績予想

米国：米国西海岸の新倉庫にて、新規顧客の取扱いを開始見込み
 中国：大型スポット案件獲得により増収を見込む

(単位：百万円)

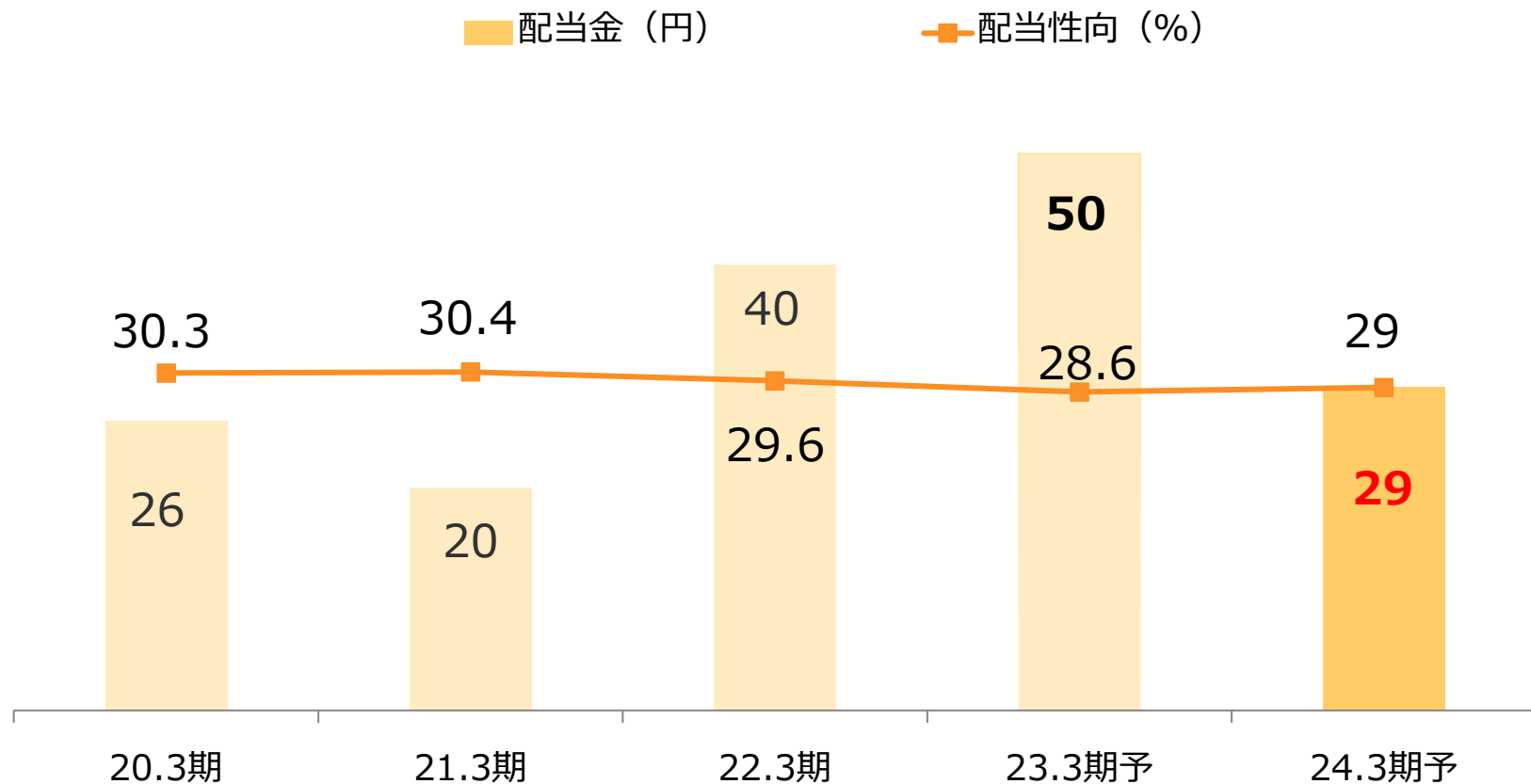
	2023.3期	2024.3期 予想	構成比	前期比 増減	前期比 増減率
日 本	18,804	18,620	90.8%	▲184	▲1.0%
中 国	74	280	1.4%	+205	+277.3%
米 国	1,456	1,600	7.8%	+143	+9.8%
合 計	20,335	20,500	100.0%	+164	+0.8%

為替レート 2023.3期 1米ドル=131.43円 1人民元=19.48円
 2024.3期 1米ドル=133.00円 1人民元=19.00円

3-4. 配当について

2024.3期：配当性向30%程度を維持

2023.3期：過去最高の1株当たり50円を配当予定



1. 2022年3月期 決算概要 P 3
2. 中期経営計画の総括及び
今後の取組み P 8
3. 2023年3月期 業績予想 P15
- 4. トピックス P20**
5. 参考資料 P25

【参考】トピックス

世界包装機構主催のパッケージングコンテストにおいて、
ワールドスター賞を受賞!!

12 つくる責任
つかう責任



14 海の豊かさを
守ろう



	受賞歴
2023年	世界包装機構主催 World Star 2023 ワールドスター賞 受賞 『工数削減・環境負荷低減を目的とした緩衝スペーサーの開発』
2022年	Good Packaging 包装アイデア賞 受賞
2021年	Good Packaging 工業包装部門賞 受賞 世界包装機構主催 World Star 2021 ワールドスター賞 受賞
2019年	Good Packaging 輸送包装部門賞 受賞
2018年	Good Packaging 包装アイデア賞 受賞 アジア包装連盟主催 Asia Star Winner2018 アジアスター賞 受賞
2017年	Good Packaging テクニカル包装賞 受賞 世界包装機構主催 World Star 2018 ワールドスター賞 受賞
2016年	Japan Star 経済産業省産業技術環境局長賞 受賞 世界包装機構主催 World Star 2017 ワールドスター賞 受賞
2014年	Good Packaging 大型・重量物包装部門賞 受賞
2013年	Good Packaging ロジスティクス賞 受賞
2012年	Good Packaging 医薬品・医療品包装部門賞 受賞
2011年	Good Packaging 電気・機器包装部門賞 受賞
2010年	Good Packaging 大型・重量物包装部門賞 受賞
2009年	Good Packaging 大型・重量物包装部門賞 受賞

2023年 ワールドスター賞 受賞作品



受賞歴

- ・ World Star賞
4回
- ・ Asia Star賞
1回
- ・ Japan Star賞
1回
- ・ Good Packaging賞
11回

【参考】トピックス

2022年度 北斗電気設備 日本卓球リーグプレーオフ

JTTLファイナル4 初優勝!!

2022年12月10日（土）～ 12月11日（日）に宮崎県延岡市にある延岡市民体育館で日本卓球リーグプレーオフ JTTLファイナル4が開催されました。

ファイナル4とは、前期と後期の日本リーグの総合順位上位4チームが参加し、年間日本一を決める大会であり、この大会での優勝がサンリツ女子卓球部の目標でした。

サンリツらしい粘り強い卓球で、悲願の初優勝を果たすことができました。

ファイナル4連覇に向けて精進してまいりますので、今度とも、応援の程、宜しくお願いいたします。



集合写真



梅村選手・塩見選手

【参考】トピックス

「第一回サンリツ・三浦杯 小学生卓球大会」開催

2023年2月11日（土）にサンリツ京浜事業所内にて、「第一回サンリツ・三浦杯 小学生卓球大会」（主催：サンリツ、共催：ニッタク、協賛：アリスト）を開催いたしました。



記念すべき第一回となる大会には、東京、神奈川、千葉、埼玉から女子カブ・ホープスの県代表レベルの選手32名が集まり、白熱した試合が展開されました。

最後にサンリツ卓球部選手と優勝・準優勝者によるエキシビジョンマッチが開催されました。

サンリツは、今後も子どもたちの心身の成長を願い、彼女たちの夢を応援していきます。



出場選手たち



大会の様子

※ 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

問い合わせ先：企画部 03-3471-0463



1. 2023年3月期 決算概要 P 3
2. 中期経営計画の総括及び
今後の取組み P 8
3. 2024年3月期 業績予想 P15
4. トピックス P20
5. **参考資料** **P25**

【参考】2023年3月期 連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2022.3期	2023.3期	前期比 増減	負債 純資産の部	2022.3期	2023.3期	前期比 増減
流動資産	6,707	6,882	175	流動負債	5,957	6,205	247
有形固定資産	11,724	12,016	292	固定負債	5,077	4,710	▲366
無形固定資産	133	288	155	負債合計	11,034	10,916	▲118
投資その他の資産	1,918	1,983	65	純資産合計	9,448	10,255	806
固定資産合計	13,775	14,288	512				
資産合計	20,483	21,171	687	負債・純資産 合計	20,483	21,171	687

【参考】2023年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2022.3期	2023.3期	主な要因
期首残高	2,861	2,749	
期中増減額	▲112	▲23	
営業活動によるキャッシュフロー	1,232	1,415	税引前当期純利益：1,382百万円 減価償却費：767百万円
投資活動によるキャッシュフロー	▲973	▲904	有形固定資産の取得による支出： ▲1,158百万円 有形固定資産の売却による収入 466百万円
財務活動によるキャッシュフロー	▲430	▲678	有利子負債の減少：322百万円
換算差額	59	144	
期末残高	2,749	2,725	

【参考】梱包事業について

■ 進駐軍搬入の特別仕様の梱包指名を受ける

米軍の精密機器をミル規格に則って梱包しなければならなかったが規格に則ってきちんと梱包していた為、高い評価を受け、検査官からの信用も得ていた。

■ 防衛庁(現防衛省)から精密機器の輸送・梱包の仕事

「防衛庁規格」=ミル規格を参考に作成された非常に厳しい規格。
しかし、当社はこれを得意としており、防衛庁の検査官からも当社は高い評価を得ていた。

→「梱包が難しいものならサンリツに」といわれるまでに、信用されていた。

「信用」と「高い梱包技術」が当社の財産

【参考】事業概要

梱包事業

- 小さな精密機器から超重量貨物までの梱包を多岐に渡り対応
- 製品形状や特質・送り先（国内外）・輸送状況を考え、製品の品質を保つ
- コスト的にも最善な梱包形態を提供

運輸事業

- 精密機器、電機通信機器、計測器、医療機器などエレクトロニクス関連の製品を中心に低コストで配送
- 協力会社のサポートによる全国配送も可能
- 引越など輸送に関わる幅広い業務を行う

倉庫事業

- 空調を完備した快適な環境
- 24時間フルタイム管理・警備対応
- 梱包工場としての機能を有しており、流通加工、開梱並行処理拠点として機能していることに加えて、取扱製品に応じた設備を有する

国際物流

- ・ 保税蔵置場に梱包工場を併設
- ・ 梱包から保税蔵置・通関そして港湾・空港への輸送にいたるまで自社で対応
- ・ NVOCC（外航利用運送事業者）として船会社からスペースを買い取ることで、目的地までの最適な輸送方法を、一貫した運用責任の下、提供する

3PL

- ・ 物流改革の提案を行い、物流業務を包括的に引受ける
- ・ 高度な梱包技術と包装設計を駆使し、自社内での梱包、輸配送、保管、在庫管理、保税通関、エンドユーザーまで届けている

包装設計

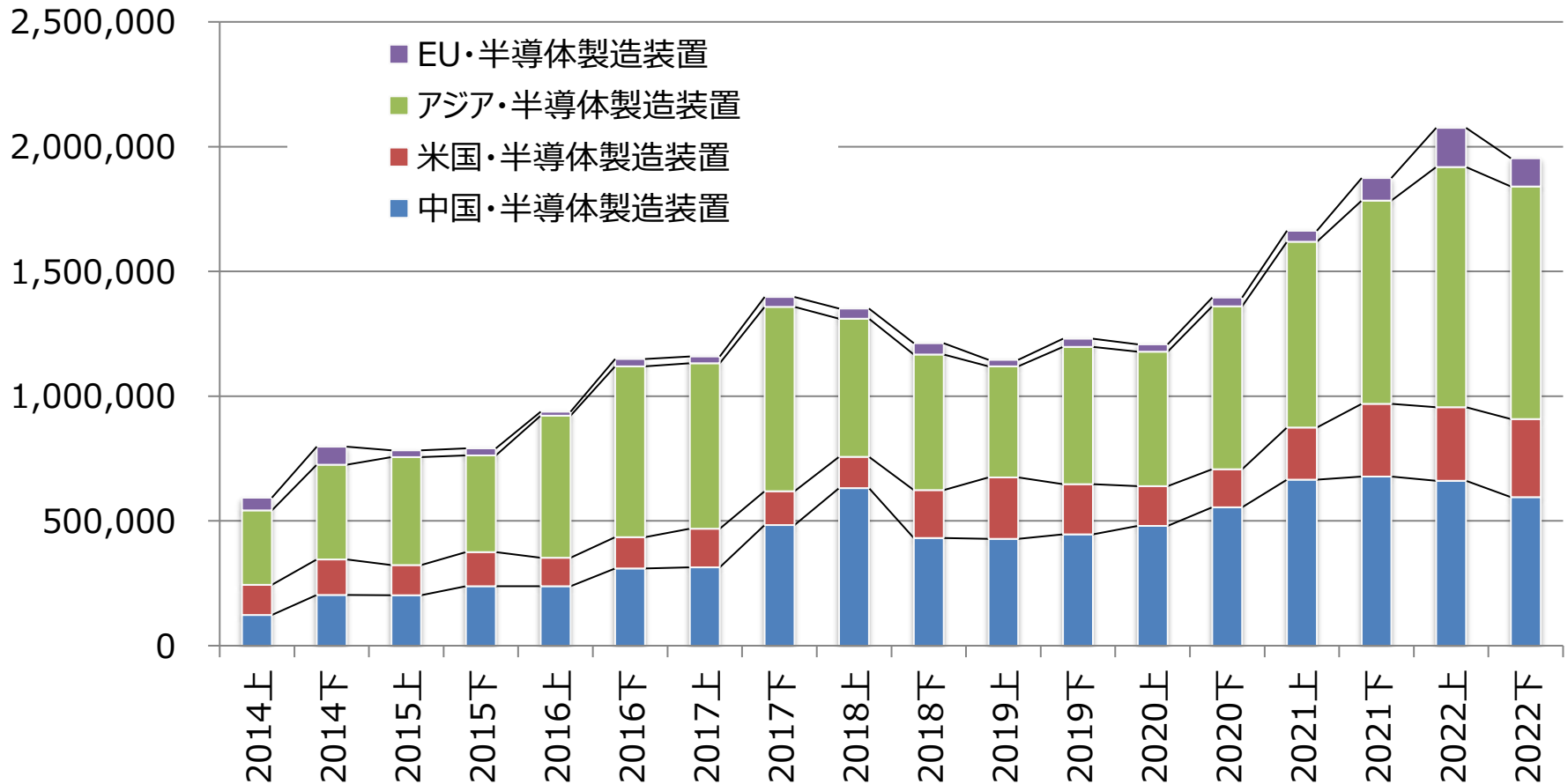
- ・ 取扱製品が多岐に渡るため、様々な包装技術・技法及び材料を採用している
- ・ 地球環境保護問題に対応した包装技術・技法の改善、向上を図っている
- ・ 常に新包装技術の開発を行っている

【参考】外部環境(～2022年度下期)

品目別輸出金額 年別推移 (半導体製造装置)

※半導体等製造装置…半導体ボール又は半導体ウエハー製造用の機器
半導体デバイス又は集積回路製造用の機器

(単位：百万円)



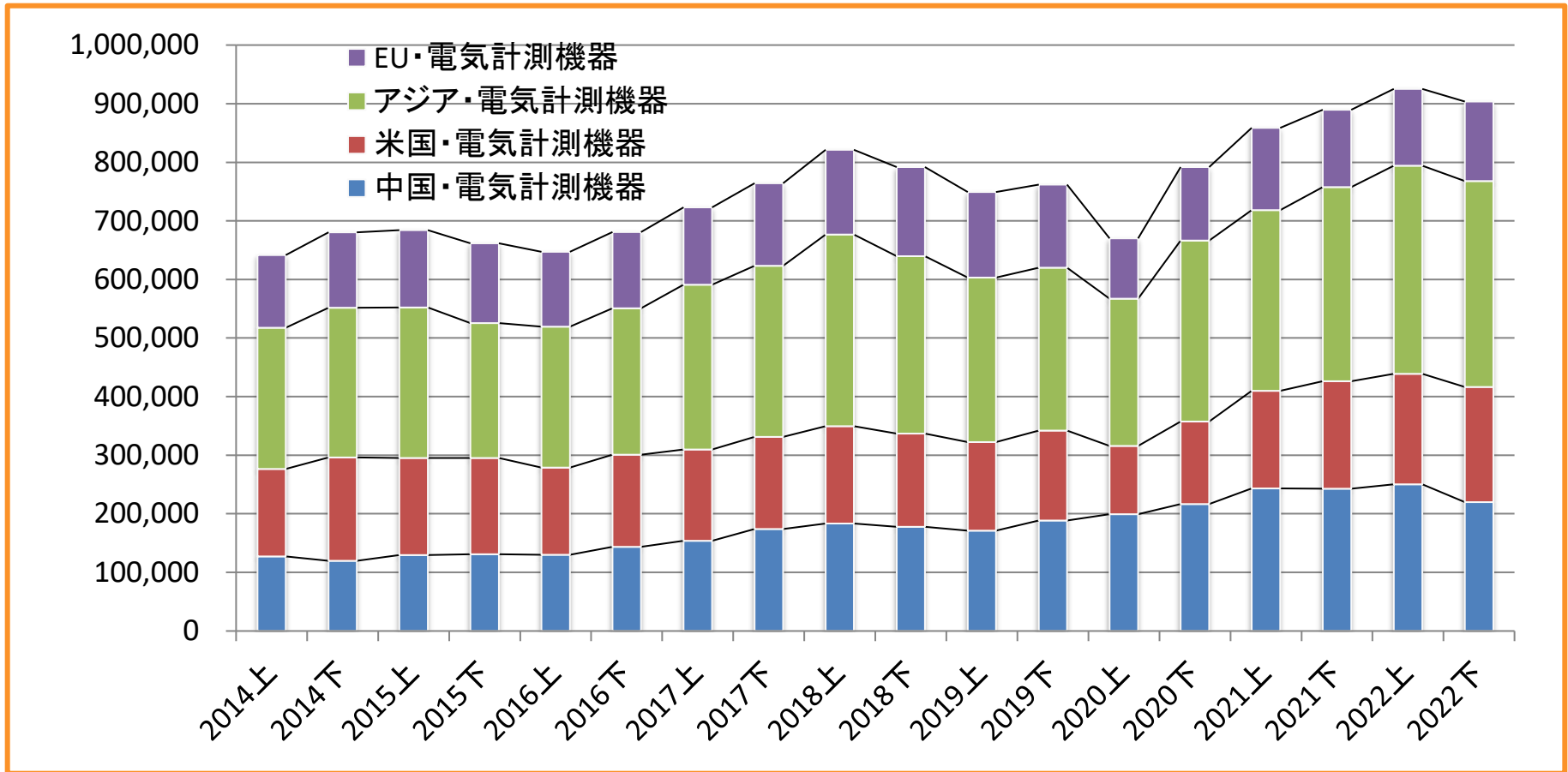
・半導体製造装置は2020年下期より、大幅な増加が続いていたものの、2022年下期には前期比で減少している。

【参考】外部環境(～2022年度下期)

品目別輸出金額 年別推移 (電気計測機器)

※電気計測機器…マイクロメーター、電気用計器など

(単位：百万円)



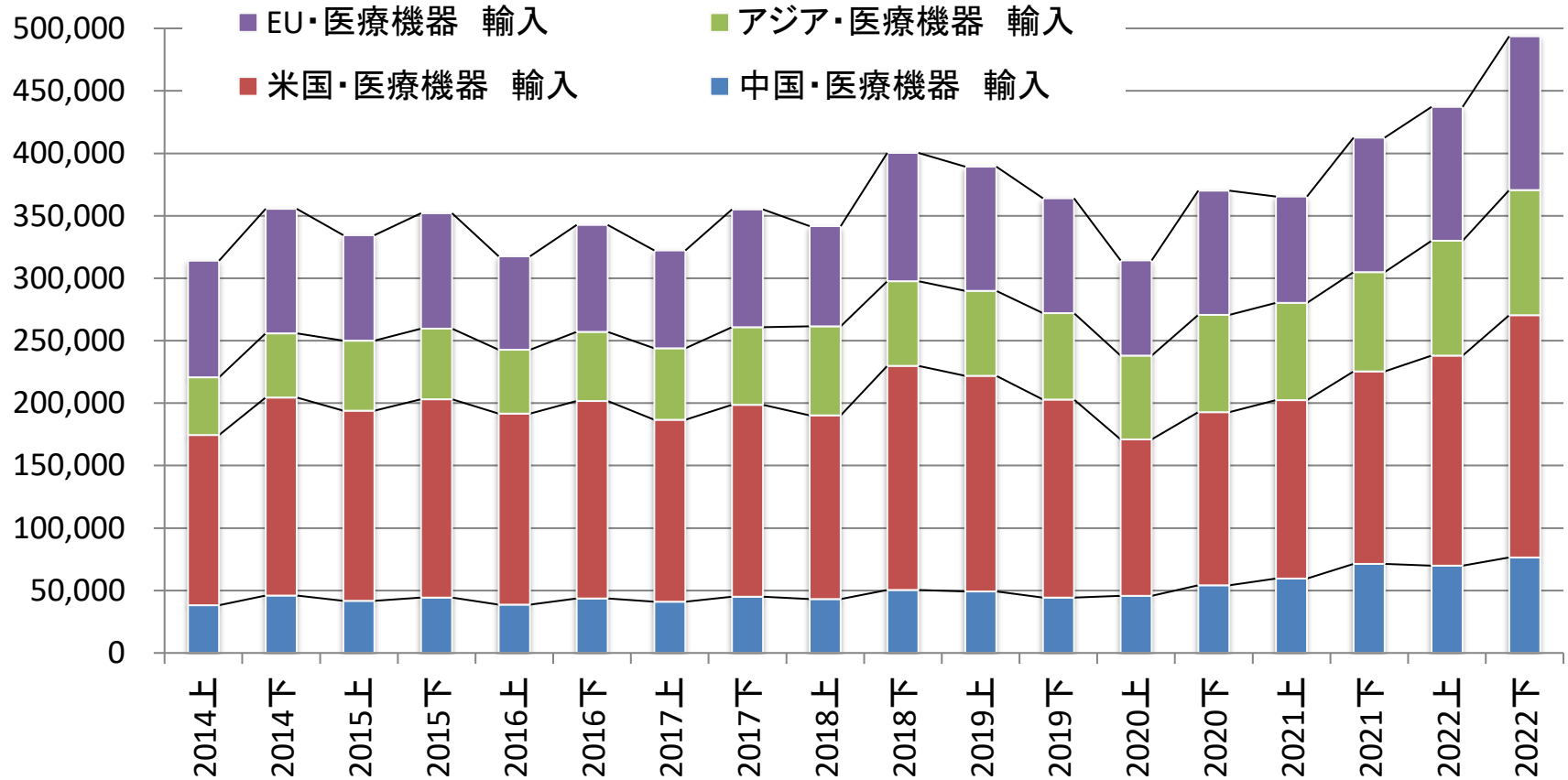
- 電気計測機器は2018年上期より減少傾向にあったが、2020年下期には増加に転じているものの、2022年下期には前期比で減少している。

【参考】外部環境(～2022年度下期)

品目別輸入金額 年別推移 (医療機器)

※医療機器…医療用または獣医用機器、診断用電気機器、エックス線などを使用する機器など

(単位：百万円)



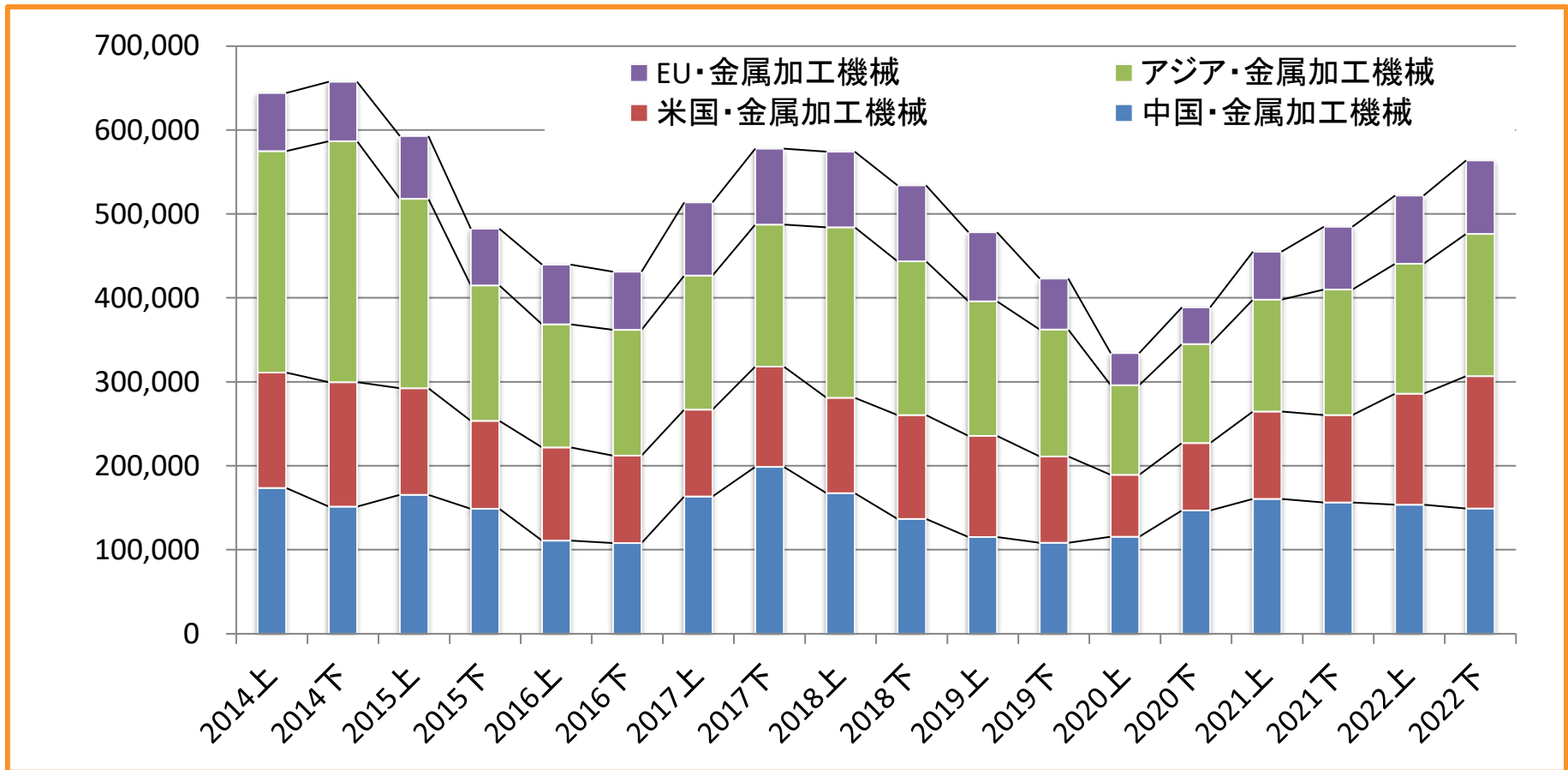
- ・ 2020年下期より回復に転じ、回復傾向が継続している。

【参考】外部環境(～2022年度下期)

品目別輸出金額 年別推移 (金属加工機械)

※金属加工機械…旋盤、研削盤、金属加工用のマシニングセンターなどその他の加工機械

(単位：百万円)



- 金属加工機械はシクリカルな業界動向の中で、2017年下期をピークにダウントレンドに入っているものの、2020年上期には底を打ち、アップトレンドへ転換している。